

令和2年度第1回認知症施策検討委員会

日時 令和2年9月14日（月）

13：30～15：30

場所 高梁市役所3階大会議室

1. 開 会
あいさつ

2. 自己紹介

3. 委員長の選出について

委員長：河本良二氏、副委員長：青木菜奈氏

4. 協議事項

① 令和元年度の認知症総合支援事業及び認知症施策検討委員会の実績について
（※別紙のとおり）

② 令和2年度の認知症総合支援事業計画及び重点活動について
（※別紙のとおり）

③ グループワーク

テーマ「認知症ケアパスの活用について」

(1) 実際の活用事例

- ・ 認知症カフェの参加者で興味のある人へ持って帰ってもらった。
- ・ 対象者の家族が相談に来た際の説明
- ・ 認知症サポーター養成講座でチェック項目や相談の流れを説明した
- ・ 見た事自体はあるが、中身までをじっくりと見たことはない

(2) こんな活用をしたらどうだろう？

- ・ 本人に見せてしまうと怒る場合もある為家族や支援者が活用出来たら良い。
- ・ 説明をする人がきちんと理解しておく必要がある
- ・ 認知症サポーターや民生委員、福祉委員、愛育委員等
- ・ 広報誌等を利用し、40～50代のこれから介護者となっていく人への周知に活用する

- ・ 内容が難しい部分もある為、専門職と一般の方向けで分けて利用する。
- ・ チェックを誰がするのが難しい場合がある。家族も気付いていない場合には近所の人から包括へ情報が入るような仕組みが必要。
- ・ 家族が遠方の場合、家族に状況を理解してもらう事に時間が掛かってしまう場合がある

5. 認知症初期集中支援事業について（報告）

5月から介入し、9月7日施設入所し、終結となっている。

95歳男性、3年前集会所でお茶と間違えて灯油を出すという出来事や、妻が倒れていても一晩異常に気付かず毛布を掛けていた事等があった。元々穏やかな性格で無口なだけか認知症の症状かの判断が難しかった。妻が倒れて以降独居となり、家族はもう少し一人で何とか生活出来ないかと考えていたが、夜間動き回り溝へ転落し入院となった。入院中の会議で、地域から帰ってもらっても夜間の見守りが出来ず、困るという声が出て退院後施設入所となった。

日中活動し、夜間眠るという生活リズムを整えていればもう少し長く在宅生活の継続が可能であったかもしれないが、家族への説明をどの段階で行うかも難しいと感じている。

6. その他

- ・ 第2回認知症施策検討委員会について

日時：令和2年11月6日（金） 13：30～

場所：高梁市役所3階大会議室

- ・ 高梁・新見地域認知症疾患医療連携協議会 高梁部会について

昨年より備北地域認知症疾患医療連携協議会から名称変更。2月6日に開催し、47名参加、協議会研修会や情報交換会を開催。今年度の開催も検討中。

- ・ たいようの丘ホスピタルは旧高梁病院のイメージは強くハードルが高い。3月5日より木曜日午前中に樋口医師、青木PSWにて高梁中央病院で物忘れ外来を開始。

7. 閉 会